

令和5年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

おいでよ！そばに 棚田と清水、摩耶の里・こえさわ

○集団等の名称 越沢自治会（代表 伊藤 治）

○所在地 山形県鶴岡市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

鶴岡市は、山形県の西部に位置する。越沢集落は、鶴岡市中心市街地から約30km離れた山間部にあり、集落内には、やまがたの棚田20選の「越沢の棚田」や里の名水やまがた百選の「郷清水」がある。

少子高齢化による人口の減少や転出者が目立ち始め、集落の存続に危機感を抱いた住民の声をきっかけに、平成28年に自治会の有志と地域おこし協力隊等による「越沢自治会活性化委員会」を組織した。

・むらづくり組織の概要

住民が抱える問題や地域の魅力を把握するため、中学生以上の全住民を対象にアンケートを実施し作成した越沢活性化ビジョンのもと、住民団体やそば生産組合などの関係団体と連携しながら、住民総参加で地域づくりに取り組んでいる。住民が持つ個々の得意とする分野を最大限発揮できる「出番づくり」が行われており、「地域内での小さな成功体験」を積み重ねることで、自立した地域づくりに向けた意識と意欲が醸成され、行政に頼らない自主運営に繋げていくための基盤となっている。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 在来作物に認定されたそばを集落が運営するそば処で提供するため、経費を算定した上で買取可能価格を計算し、自治会が固定価格(450円/1kg)で全量買取することで、安定収入の仕組みが構築され、生産農家は2戸(約0.8ha)から17戸(約14.9ha)に増加し、集落内のそば作付けのすべてが在来そばに移行している。
- ② 在来そばのブランド化に向け、令和2年に在来そばの商標登録を行い、集落外への種の持ち出し・栽培を行わないルールづくりや交雑防止のための作付けを管理し、在来作物としての希少価値を維持している。
- ③ 高齢により引退した生産農家のほ場を既存農家が引き継ぎ、意欲のある集落内外の方と共同で栽培に取り組む体制づくりを進めている。令和5年には新規栽培者が4名増え17名となり、栽培技術の継承と担い手育成に繋がっている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 冬期間の豪雪に備えるため、高齢者世帯等を対象にした「雪下ろし協力隊」を結成し、協力隊員の冬期間の収入確保と高齢者の安全確保に寄与している。
- ② 自然豊かで美しい原風景を後世に残すため、遊休農地へのそばの作付けや、集落住民で棚田の保全を行い、郷清水や遊歩道の環境整備に取り組んでいる。
- ③ 在来そばを核に、地域のPRと働く場の確保に繋げるため、拠点となるそば処を運営し、そば打ち体験やそばまつりの開催、そばそうめん等の加工品の商品化など、地域内外との交流を創出しており、年間3,000人ほどの来訪がある。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、棚田を始めとした自然豊かな地域の魅力の発信と、そばのブランド化や拠点づくりを通じて賑わいを見せており、地域内外との交流創出が今後とも期待できる。農家・非農家を問わず、集落として農業を含めた産業のあり方を考え、農地や里山を維持するために、地域資源や個々の住民の特性を最大限生かしている本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。